

楽しんで書く児童を育成する 低学年国語科学習指導

ー「広げ整理する・価値付ける」語彙指導サイクルを通してー

予測困難な時代では、生涯にわたって能動的に学び続けることが必要であるとされている。このような社会的背景を受けて、令和元年6月「第2次福岡市教育振興基本計画」では、自ら学ぼうとする意欲を重視すること、特に低学年においては、「わかった」「できた」など、学ぶ楽しさを味わうことの重要性が述べられている。

そこで本研究では、語彙指導を単元内に繰り返し位置付けることによって、児童が楽しんで書く姿の実現をめざした。

具体的には、語彙指導サイクルとして、見通す、集める、見付ける、気付くという四つの場面において、今回は、言葉あてクイズや言葉集めを通して語句を広げ整理したり、書いた語句にシールを貼って価値付けたりする活動を設定した。

その結果、類義語や対義語、比喻やオノマトペなどの使用する語句の量が増えるとともに、語句が組み合わせられるなど効果的に使用され、質も豊かに表現することができた。このことから、語彙指導サイクルは、低学年の児童が「わかった」「できた」という学びを積み重ね、楽しいという実感をもって表現することに有効であるとわかった。

福岡市教育センター長期研修員
福岡市立照葉小学校 大村 彩可

1 主題について

(1) 主題設定の理由

① 社会や国の動向から

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化してきている。予測困難な時代では、生涯にわたって能動的に学び続けることが必要であるとされている。

このような社会的背景を受けて、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(2020)では、「主体的に学習に取り組む態度」として「よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価する」という従前の考え方を改めて強調した。学習意欲と学力の関係については、国立教育政策研究所「平成25年度全国学力・学習状況調査 報告書 クロス集計」(2013)によると、「学習意欲に関する項目に肯定的に回答した児童の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られた」ことが示され(【資料1】)、学習意欲と教科の平均正答率には、相関があることがわかった。

質問事項	選択肢	当該選択肢を選んだ児童の平均正答率	
		国語A	国語B
国語の勉強は好きですか	① 当てはまる	88.2	55.3
	② どちらかといえば、当てはまる	84.4	51.9
	③ どちらかといえば、当てはまらない	80.8	47.7
	④ 当てはまらない	55.3	39.0
国語の勉強は大切だと思いますか	① 当てはまる	65.2	52.4
	② どちらかといえば、当てはまる	80.8	47.4
	③ どちらかといえば、当てはまらない	55.1	39.4
	④ 当てはまらない	50.1	30.8
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	① 当てはまる	64.5	51.8
	② どちらかといえば、当てはまる	68.1	50.3
	③ どちらかといえば、当てはまらない	57.2	42.1
	④ 当てはまらない	50.8	31.8
今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたか、どのように解答しましたか	① 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	67.4	55.3
	② 書く問題で解答をしなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった	58.5	37.8
	③ 書く問題は全く解答しなかった	40.3	20.1

【資料1】 H25 学習意欲と教科の平均正答率の関係 (児童質問紙)

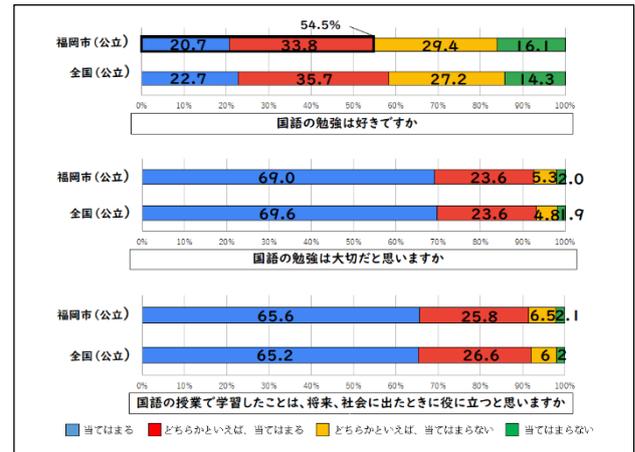
また、国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査2018年調査のポイント」(2019)では、我が国の15歳は、「自由記述形式の問題において、自分の考えを根拠を示して説明することに、引き続き課題がある」という結果を発表した。論理的思考力の育成には、書くことが中心になることを踏まえると、小学校段階でも書く力を身に付けることは重要であると考えられる。

② 福岡市の教育の動向から

「第2次福岡市教育振興基本計画」(2019)では、福岡の子どもたちに大切にしてほしい態度の中に「自学」を挙げている。「自学」とは、「自ら学ぼうとする意欲を持ち、主体的に学びに取り組もうとする態度」である。また、「意欲を持って自ら学ぶことは、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を身に付ける上で、とても重要なもの」であること、「特に、小学校の初期段階では、『分かった』『できた』など、学ぶ楽しさを味わうことで自信となり、一層高まっていくことも記されている。

しかしながら、「令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について」(2021)では、意欲に関する質問に肯定的に回答した児童の割合は、全ての項目で、全国よりも低い値を示している(【資料2】)。さらに、「国語の勉強は好きですか」という質問に対して肯定的に回答した児童は54.5%で特に低い値を示していることがわかる。

また、同調査の結果から、小学校では、「B 書くこと」において、平均正答率が全国を下回っている(【資料3】)。



【資料2】 R3 全国学力・学習状況調査 (児童質問紙)

また、同調査の結果から、小学校では、「B 書くこと」において、平均正答率が全国を下回っている(【資料3】)。

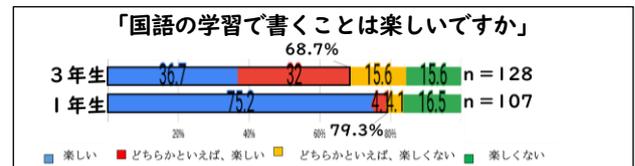
分類	区分	平均正答率(%)		
		福岡市	全国(公立)	
全体				
		64	64.7	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	66.0	68.3
		(2) 情報の強いに關する事項		
		(3) 我が国の言語文化に關する事項		
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	80.4	77.8
		B 書くこと	59.5	60.7
		C 読むこと	47.6	47.2

【資料3】 R3 全国学力・学習状況調査

これらのことから、本市が自ら学ぼうとする意欲を重視し、特に低学年においては、「わかった」「できた」など学ぶ楽しさを重視している一方で、本市の児童は、意欲と「書くこと」に課題があることが明らかになった。

③ 検証校の現状や自分のこれまでの授業の反省から

令和4年5月に、検証校の1年生と低学年を終えた3年生を対象に実態調査を行った(【資料4】)。

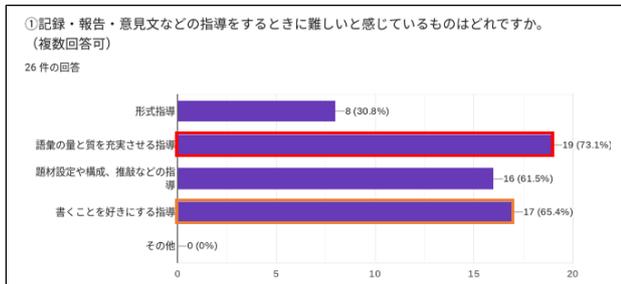


【資料4】 書くことの楽しさに関するアンケート結果

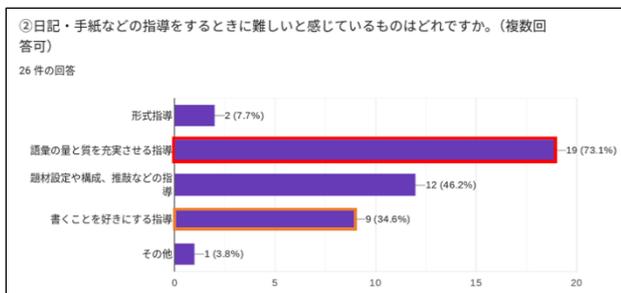
「国語の学習で書くことは楽しいですか」という質問に対して、1年生は79.3%の児童が肯定的に回答した。学習意欲と教科の平均正答率には相関があることから、書く力も上げなければ書くことは楽しいと感じる児童も下がる可能性がある。

3年生で肯定的に回答した児童は68.7%であり、認識、伝達・表現、記憶、思考、情緒、記録などの書くことの機能に楽しさを感じている児童は、128人中19人であった。大半の児童が文字を書くことに楽しさを見いだしたり、「わからない」「なんとなく」など理由が曖昧だったりしたことから、本来の書く力を伴った楽しさとは言えない。

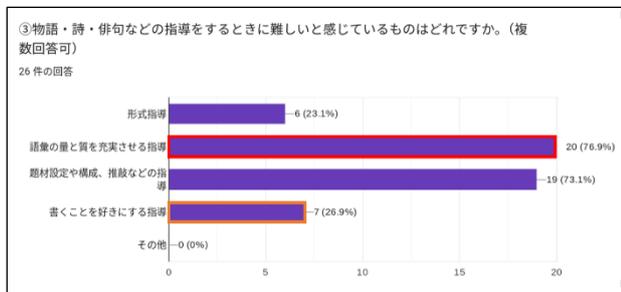
【資料5】【資料6】【資料7】は、検証校の教師を対象に行った、難しさを感じる書くことの指導に関するアンケートである。「書くことを好きにする指導」について見ると、「日記・手紙」の34.6%と「物語・詩・俳句」の26.9%に比べて、「記録・報告・意見文」が65.4%だった。記録・報告・意見文で書くことを好きにする指導が難しいと感じていることがわかる。また、語彙の量と質を充実させる指導に難しさを感じている教師が全ての文種で70.0%を超えていた。



【資料5】教師向けアンケート結果①



【資料6】教師向けアンケート結果②



【資料7】教師向けアンケート結果③

検証校の児童の実態や指導の難しさを踏まえると、記録・報告・意見文の学習における書くことを好きにする指導や、語彙を充実させる指導、低学年児童が思いを表現する楽しさを感じられるような指導が必要であると考えた。

これまでの自分の授業を振り返ると、形式指導を中心に行っていたことから、低学年の発達を踏まえ、相手に通じるように書くことが求められる二次的ことばへの円滑な接続を求めた入門期における書くことの指導が課題としてある。

以上から、低学年において、楽しんで書く姿の実現をめざす国語科学習指導について明らかにする必要があると考え、本主題を設定した。

(2) 主題及び副主題の意味

① 楽しんで書くとは

楽しいという実感をもって表現することである。「身近なことを表す言葉がわかった」「書きたいことにぴったりの言葉を使ってたくさん書くことができた」を感じ、「わかった」

「できた」という学びの積み重ねを基に、語彙の量と質を豊かに表現する姿を求めている。「小学校学習指導要領解説国語編」(2017)によると、「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある」と指摘されていることから、語彙を豊かにする指導の改善・充実を図り、各学年において、指導事項に「語彙」を位置付けている。そこで、本研究では、語彙の量と質を豊かにし、楽しんで書く姿をめざす。

② 低学年国語科とは

第1学年及び第2学年で行う国語科である。この時期の児童への指導には、五感を使って感じたままを書かせることが大事であると言われている。中村(2014)は、低学年期においては、「『一次のことば』を使って『書く』」という現象が起こることを述べている。「一次のことば」とは、特定の人間関係の中で育まれる言葉の使い方である。森(2015)は、低学年期の指導では、「構成にはとらわれず、したことをしたままに、見たことを見たままに、感じたことを感じたままに、順序良く書かせる」ことを重視している。低学年の特徴を踏まえると、低学年においては、話すように書くなど、感じたまま、書きたい順序で書かせる指導が考えられる。

③ 「広げ整理する・価値付ける」語彙指導サイクルとは

1単位時間で「語句を広げ整理する活動、書いたものを自己によって価値付ける活動」を設定するという一連の語彙指導と、語彙指導を単元内に繰り返し位置付けることである。鹿毛(2020)は、「三つの欲求が同時に満たされることによってエンゲージメントが高められる」と述べ、エンゲージメント(意欲的な姿)を示した。意欲的な姿の一つとして、楽しんでる姿を挙げている。三つの欲求について鹿毛は、「環境と効果的に関わりながら学んでいこうとする傾向性」をコンピテンスへの欲求、「行為を自ら起こそうとする傾向性」を自律性への欲求、「他者やコミュニティと関わろうとする傾向性」を関係性への欲求と捉えている。これら、三つの欲求の充足を促すものとして鹿毛は、自律性サポート、構造、関わり合いをエンゲージメントモデルとした。同じく、三つの心理的欲求を基に、三つの欲求を満たすグループでのプレゼンテーション活動の効果を検討した田中・廣森(2007)は、三つの欲求を満たすキーワードを挙げている。キーワードには、自らの学習行動に対する責任や選択、肯定的なフィードバック、他者や集団との連帯感と示されている。本研究では、鹿毛のエンゲージメントモデルと田中・廣森のキーワードを基に、三つの欲求を満たすキーワードを筆者が作成した(【資料8】)。また、石黒(2017)は、語彙の量を増やす方法、語彙の質を高める方法をそれぞれ11の観点で示した。本研究では、石黒が示した観点のうち、学習指導要領に重なる部分である「類義語、対義語」「比喩とオノマトペ」を基に、使用する語句の量や範囲を広げながら、語句相互の意味関係を理解することで、語彙を豊かにしていく。

以上から、三つの欲求を満たすキーワードを踏まえ、語彙と関連付けた具体的な支援を語彙指導サイクルとし、【資料8】に図式化した。

三つの欲求 欲求への働きかけ		自律性への欲求	コンピテンスへの欲求(鹿毛) 有能性の欲求(田中・廣森)	関係性への欲求
エンゲージメントモデル (鹿毛)		自律性サポート ・傾聴し、他者が自分自身のやり方で振る舞うことを許容するなど	構造 ・進歩するための励まし、コツ、ヒントを提供するなど	関わり合い ・他者の関心事に付き合うなど
欲求を満たすキーワード (田中・廣森)		自らの学習行動に対する責任や選択	肯定的なフィードバック	他者や集団との連帯感
本研究における三つの欲求を満たすキーワード		選択の許容	励まし、ヒントの提供	他者との関わり
語彙指導サイクル	整理する活動 ↓ 見通す場面 ↓ 集める場面 ↓ 見付ける場面	使う語句を制限せず、選択を認める。 見付ける場面における具体的な活動：集めた語句から選択	比喻やオノマトペ、類義語、対義語を考えながら語句を出し合ったり、整理したりすることで、書くヒントを与える。 見通す場面における具体的な活動：言葉あてクイズ 集める場面における具体的な活動：言葉集め(ヒントカード)	友達の作品を提示したり、友達と一緒に語句を広げたりするなど他者と関わる場を設定する。 見通す場面における具体的な活動：言葉あてクイズ 集める場面における具体的な活動：言葉集め(ヒントカード)
	書いたものを自他によって価値付ける活動 ↓ 気付く場面		使われている語句など文章のよいところに友達からシールを貼ってもらうことで、励ましを行う。 気付く場面における具体的な活動：互いにシールを貼る	友達が書いた文章を読んで、文章の中で使われている語句などよいと思ったところにシールを貼らせることで、他者と関わる場を設定する。

【資料8】三つの欲求と欲求への働きかけ(語彙指導サイクル)

2 研究の目標

低学年国語科学習指導において、楽しんで書く児童を育成するために、「広げ整理する・価値付ける」語彙指導サイクルの在り方を明らかにする。

3 研究の仮説

低学年国語科学習指導において、語句を広げ整理する活動と、書いたものを自他によって価値付ける活動を語彙指導サイクルとして単元に繰り返し位置付ければ、「わかった」「できた」という学びを積み重ね、語彙が量と質の両面から充実して、楽しんで書く児童を育成することができるだろう。

4 研究の構想

(1) 内容

本研究では、石黒が示した語彙の量と質を高める観点を基に、語彙の量と質を豊かに表現する姿を筆者が作成し、次の三つの姿で捉える。

比喻を含む名詞・形容詞・動詞、オノマトペを含む副詞などの語句を使って書く姿。例：緑
比喻を含む名詞・形容詞・動詞、オノマトペを含む副詞など複数の語句を組み合わせて書く姿。例：濃い緑
複数の事柄から、比喻を含む名詞・形容詞・動詞、オノマトペを含む副詞など複数の語句を組み合わせて書く姿。例：濃い緑、石みたいに硬い

(2) 手だて

① 語句を広げ整理する活動

「わかった」「できた」を感じるために、「語句の増やし方を見通す、語句を集める、使いたい語句を見付ける」場面を設定する。「見通す」場面では、ICTの共有機能を活用して児童の作品を提示し、語句を出し合った後、比喻やオノマトペにも触れながら、類義語、対義語で語句を整理する活動を設定する。「集める」場面では、比喻やオノマトペ、類義語、対義語を考えながら語句を出し合ったり、整理したりしながら語句を集める活動を設定する。「見付ける」場面では、使う語句を制限せず、集めた語句を使って書きたいことに合う語句の選択を認める。

② 書いたものを自他によって価値付ける活動

「わかった」「できた」を感じるために、「自分が書いた文章(語句)のよいところに気付く」場面を設定する。「気付く」場面では、書いたものに対して、友達からシールを貼ってもらったり、友達の書いたものにシールを貼ったりする活動を設定する。

(3) 検証の方法

① 検証内容

○ 語句を広げ整理する活動は、「わかった」「できた」を感じながら語彙の量と質を豊かにし、表現する上で有効で

あったか。

- 書いたものを自他によって価値付ける活動は、「わかった」「できた」を感じながら語彙の量と質を豊かにし、表現する上で有効であったか。

② 検証授業

- 1年生 (国語科) 6月～7月
- 1年生 (国語科) 9月～10月

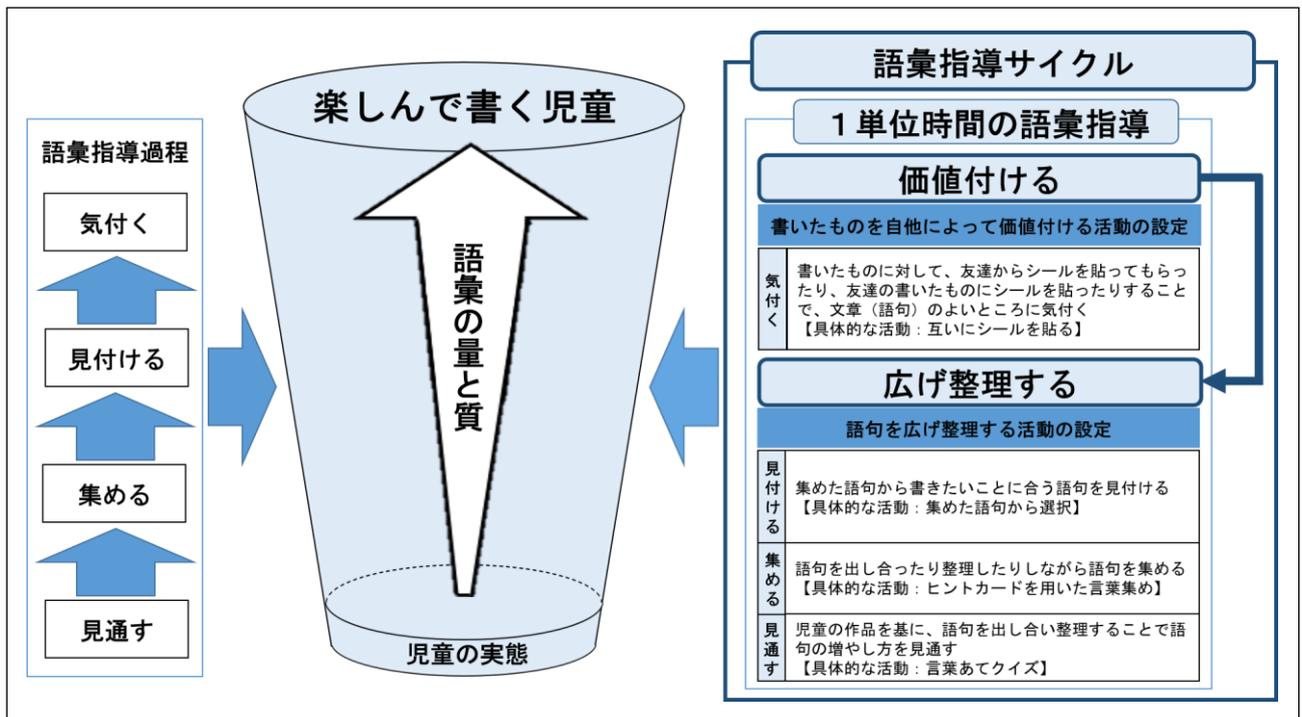
③ 検証方法

- 実践前と実践後の児童へのアンケート分析
 - ・アンケート「国語の学習で書くことは楽しいですか」
 - ・楽しい理由の記述から、書くことの機能について楽しいと感じているか検証(実践2に限って、書くことの機能について項目を作成しアンケートを行った)
- 毎時間の作品について、語彙の量と質からの分析
 - ・延べ語数(いくつの語でできているか)「名詞・形容詞・動詞・副詞」による量
 - ・語句の組み合わせによる質(抽出児童に限って、同じ語句は何回出てきても1回と数える数え方をする異なり語数からも検証する)

本実践では、楽しんで書く児童の姿を検証するために、学級全体の変容に加え、抽出児の変容を追っていく。3人の抽出児については、事前アンケートと作品を基に選択した。

<p>A児</p> <p><u>ちよと</u> <u>さんかく</u> <u>せんが</u> <u>はいてる</u> <u>ちよと</u> <u>ぺーちゃんこ</u> <u>ちよと</u> <u>だけまる</u> <u>みた</u></p> <p>種の観察日記</p>	<p>アンケートで、書くことは楽しいと答えるも、理由は書いていない。種の観察では、形についてオノマトペを使いながら、延べ語数8語で書いた。また、異なり語数は6語である。本実践を通して、書くことの機能について楽しいと感じるか、意識の変容と、使用する語句の変容を見取る。</p>
<p>B児</p> <p><u>もくたん</u> <u>みた</u> <u>いいて</u> <u>る</u> <u>みち</u> <u>せき</u> <u>たひ</u> <u>たひ</u></p> <p>種の観察日記</p>	<p>アンケートで、書くことは楽しいと答え、「がんばったらせんせいがほめてくれる」と楽しい理由を書いた。また、種の観察では、色について2語、形について1語で比喩を使いながら書いた。本実践を通して、書くことの機能について楽しいと感じるか、意識の変容と、使用する語句の変容を見取る。</p>
<p>C児</p> <p><u>ごろ</u> <u>ごろ</u></p> <p>種の観察日記</p>	<p>アンケートで、書くことは楽しくないと答え、種の観察では、C児が「ごろごろしている」と話し、教師が書いた語句をなぞった。本実践を通して、書くことの機能に楽しいと感じるか、意識の変容と、自分で書くことができるか、使用する語句の変容を見取る。</p>

5 研究構想図



6 研究の実際 実践1

第1学年

単元名「かんさつにつき～わたしのあさがおのひみつ～」

(1) 実践1のねらい

① 研究のねらい

アサガオの観察日記における語彙を豊かにし、楽しんで書くために、「広げ整理する・価値付ける」語彙指導サイクルの在り方を明らかにする。

② 単元の目標

○ 色や形など五感で感じたことを表す語句の量を増し、使うことができる。 [知識及び技能] (1)オ

○ 観察したことなどから書くことを見付け、必要な語句を集めたり、確かめたりすることができる。

[思考力、判断力、表現力等] B(1)ア

○ 言葉がもつよさを感じ、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

③ 単元計画 (全6時間)

学習活動	西時
1 アサガオの観察日記を書くという学習の見通しを話し合う。	1
2 語句を集めて観察日記を書き、使われている語句など表現のよいところを見付ける。	4
3 アサガオの観察日記を書くという学習を通して、学んだことを話し合う。	1

④ 授業の主眼

語句を広げ整理する活動と書いたものを自他によって価値付ける活動を通して、観察日記で使用する語句を増やし、観察日記を書くことができる。

(2) 実際と考察 [4/6時]

第4時は、蕾の様子を表す語句を増やし、観察日記を書くことをねらいとした。

① 見通す場面 (題材の設定、情報の収集)

ア 実際

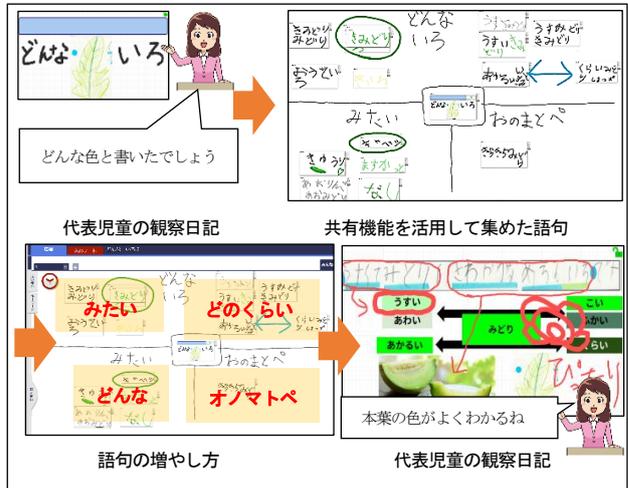
語句の増やし方を見通すために、言葉あてクイズを行う中で、語句を出し合い、整理した(【資料9】)。

まず、色の語句を隠して代表児童の観察日記を提示し、「どんな色と書いたでしょう」と問いかけ、ミライシード・ムーブノート (以後ムーブノート) で作成したカードに語句を書いて出させた。すると児童は「みどり」や「あかるいきみどり」「きらきらみどり」などと書いた。児童が書いた語句を基に、「緑に似ている色は」「明るい反対は」「緑色のものって何がある」など類義語や対義語、色から連想する語句を問い、3分間のやりとりを行った。すると児童は「きみどり」や「くらいみどり」、「きゅうり」などと書いた。3分間で29人中21人から合計27枚のカードが届いた。

次に、反対の矢印を書いたり、丸で囲んだりして、語句を類義語や対義語で整理した。その際「明るい反対は」「キャベツって黄緑?緑?」などと問い、語句の整理を行った。その後、色を表す語句の多さに触れ、「どんな、どのくらい、

みたい、おのまとぺ、にていることば」という語句の増やし方を確認した。

最後に、クイズの答えを提示し、本葉の色にぴったりの語句を選んでることを称賛した。ここでは、緑色を表す語彙の豊かさに触れることをねらいとし、「うすくてみどりいさわやかなめろんいろ」と語句を組み合わせて書いた児童の観察日記を提示した。



【資料9】語句を出し合い、整理する過程

以下に抽出児の様子を述べる。

<p>A児は、クイズが始まって15秒後に「うすいきみどり」と書いた。その後は、スクリーンをじっと見つめ、教師の話や友達の発言を聞いていた。</p>
<p>B児は、クイズが始まって12秒後に「あかるいきみどり」と書いた。その後、語句を整理するときキャベツの色を問うと、「緑」と答えた。クイズの答えを提示する前には、笑顔で身を乗り出し、提示すると「めろん」とつぶやいた。</p>
<p>C児は、クイズが始まって20秒後にペアの児童をまねして、1枚目に「きみどり」と書いた。緑色のものについて教師が問うと「ピーマン」と答え、2枚目を書き始めた。しかし、ペアの児童が「かえる」と書いたのを見て「かえ」と書いたが、「え」が正しく書けずに止めた。その後、「葉っぱ」という声を聞いて、2枚目には「はば」と書いた。語句の整理では、「明るい反対は」と問うと友達の声を聞いて「暗い」と答えた。さらにキャベツの色を問うと、「緑」とつぶやいた。その後は、体をもぞもぞと動かしながら、整理の様子を見ていた。クイズの答えを提示すると、友達の「メロン色」という声に反応して、「メロン、いろ」と声に出した。</p>

イ 考察

実践後に行ったアンケートから、観察日記を書くために、言葉あてクイズがあつてよかったと感じている児童は、90.0%いた(【資料10】)。

かんさつにつきをかくために、あつてよかったものをおしえてください。	
ことばあてクイズ	90.0% (60人中54人)

【資料10】実践後アンケート「言葉あてクイズ」

このことから、比喩やオノマトペで語句を増やしていることがわかる。

また、友達と一緒に観察の観点で観察したり、蕾に合う語句を考えたりするなど、友達と一緒に活動したことや、ヒントカードを見たことで、「ことばがわかった、ことばがかけた、ことばがふえた」という記述があった。ヒントカードの活用の様子からは、類義語や対義語で語句を増やしていることがわかった。

さらに、授業中の様子から、位置を表す語を使ったり、比較したりすることでも語句を集めた。

これらのことから、比喩やオノマトペ、類義語、対義語、比較、位置を表す語も使いながら、様々な観察の観点からペアを組んで語句を集めたり、ヒントカードを提示したりしたことが、観察日記で使う語句を増やすことにつながったと考える。

一方で、C児のペアのように、対話が生まれず、言葉集めプリントに思うように書けない児童がいた。これは、自分が育てたアサガオの蕾をそれぞれで観察したことが原因だと思われる。

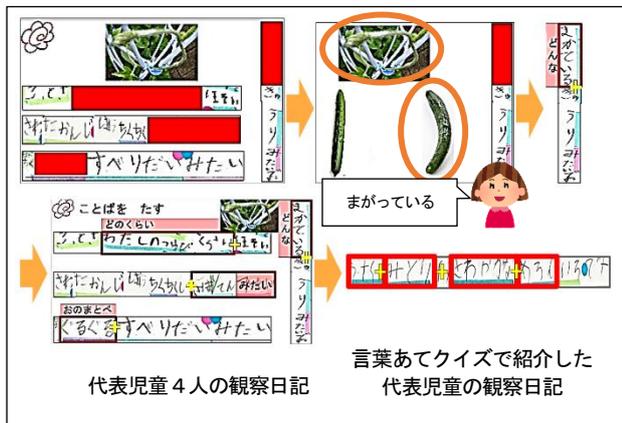
③ 見付ける場面 (内容の検討、構成の検討、考えの形成、記述、推敲)

ア 実際

観察日記に書きたいことを見付けさせるために、代表児童4人が書いた蔓の観察日記を紹介し(【資料14】)、集めた語句から蕾の様子がよくわかる語句を選択するよう伝えた。紹介する観察日記は、語彙の豊かさに触れることをねらいとし、語句を組み合わせていたものを選んでいく。

紹介する際には、まず、一部を隠して蔓の写真と一緒に提示した。

次に、キュウリの写真を2枚比較提示した。「どっちのきゅうり? どうして?」と問うと、児童は「こっち。曲がっているから」と蔓が曲がっている様子を基に答えた。そこで、「どんな」キュウリかを書くと、蔓の形がよくわかることを伝えた。



【資料14】代表児童の観察日記を紹介した過程

さらに、言葉あてクイズで提示した語句が、いくつか組み合わせられていたかを確認した。すると、代表児童が、「言葉を四つも足しているなんて知らなかった」と笑顔でつぶやいた。

最後に、語句を足すとアサガオの様子がよくわかることを伝え、観察日記を書くように促した。すると、児童は、ペア

の児童が書いた語句も含め、集めた語句の中から選んだり、アサガオに触って感じたことを言葉にしたりして、全員が蕾の様子を表す語句を使って観察日記を書いた。語句を組み合わせさせて書いた児童は、29人中11人だった(【資料15】)。

観察の観点	蕾の観察日記に見られた語句の組み合わせ
色	・きらきら緑 ・赤と白が混ざったピンク色 ・薄い(茶色、緑、黄緑) ・濃い緑 ・黄色のような緑 ・可愛い赤色
形	・くるくるしたソフトクリームみたい ・とがっているソフトクリームみたい ・蜂のおしりみたい ・ワニのしっぽみたい
大きさ	・小指より小さい ・小指の爪と同じくらい ・鉛筆の先くらい
触った感じ	・ふわふわの猫みたい ・石みたいに硬い ・硬くてくすぐったい

【資料15】蕾の観察日記に見られた語句の組み合わせ

以下に抽出児の様子を述べる(【資料16】)。

A児は、観察日記の紹介をじっと聞いていた。日記には、集めた語句から選んで、全ての観点に太さを加えて書いた。

B児は、観察日記の紹介をじっと聞いていた。日記は、集めた語句から選んで全ての観点について書いた。

C児は、観察日記を紹介すると「曲がってるから」と発言したり、小指と蔓の太さを比べたりして、蔓の様子を表す語句を確かめていた。日記を書くときには、集めた語句から「さきっぽ」を選んで蕾の色を書いた。その後、蕾に触って「隣がチクチクした葉っぱがある」とつぶやき、「つぼみのとなりがとかてる」と書いた。さらに、観察を続け、蕾の色と数を書いた。全行埋まったところで、絵のところにも書くと言って、形を書いた。

【資料16】抽出児の観察日記

イ 考察

集めた語句から蕾の様子がよくわかる語句を選択するよう伝えたことが、書きたいことを見付けて観察日記を書くことにつながったと考える。また、紹介する際に語句と写真を一緒に提示したり、形を提示する際に形をなぞったりしたことが、語句の理解につながったと考える。

一方で、語句を組み合わせて日記に書いた児童は 11 人で、37.9%だった。これは、語句を組み合わせるよさを一方的に伝えたことと、伝えるタイミングが原因だと考える。

④ 気付く場面（共有）

ア 実際

自分の書いた語句のよいところに気付くために、蕾の様子がよくわかる語句にシールを貼って価値付ける活動を設定した（【資料17】）。

まず、ペアの児童と観察日記を交換し、桃色シールを貼るように伝えた。すると、児童は、友達が書いた語句を声に出して読んだり、蕾を確認したりしながらシールを貼った。

次に、自分の観察日記に水色シールを貼るよう伝えた。すると、児童は、桃色シールと同じところや、違うところに水色シールを貼った。



指で確かめてペアの児童が書いた語句を読んでいる様子
ペアの児童の書を見て語句を確かめる様子
水色シールを貼る様子

【資料17】シールで価値付ける様子

最後の振り返りで、蕾のひみつがよくわかる語句で観察日記が書けたかを全体で聞くと、29人中26人の児童が挙手した。そして、見付けた蕾のひみつを聞くと、児童は「色は閉じているから見えない。外側は緑色」「触った感じはもふもふのねこちゃんみたいです」と発言した。

以下に抽出児の様子を述べる。

A児は、色と形に桃色シールを貼った。水色シールを貼る際は、桃色シールと同じところだけでなく、違うところにも貼っていた。振り返りでは挙手をした。

B児は、ペアの児童が書いた語句と蕾の様子が合っているかを確かめて桃色シールを貼った。「わかりやすい」とつぶやいたり、読んで分からないことがあれば、「小さいと中くらいってどういう意味」とペアの児童に聞いたりする姿もあった。また、水色シールを貼る際は、語句が蕾の様子に合っているかを親指と比べて確認し、うなずくと、シールを貼った。また、桃色シールが貼られていなかったところは、「蕾触ってみて、ちょっとだけとげとげしてるでしょ」とペアの児童に話しかけ、うなずいてもらってから、シールを貼る姿もあった。振り返りでは、挙手をした。

C児は、ペアの児童が書いた語句を指でなぞりながら声に出して読み、蕾を確認して、色・形・大きさ・数・

触った感じ全てにシールを貼った。自分の観察日記も、指でなぞりながら声に出して読み、「先っぽ紫色だったよ」とつぶやくなど蕾を確認しながらシールを貼った。自分が書いた語句を読む中で、尖っているが「とかてる」と間違っただけで書いたことに気付く姿もあった。振り返りでは、挙手をした。

イ 考察

実践後に行ったアンケートから、観察日記を書くために、シールを貼って価値付けるふわふわタイムがあつてよかったと感じている児童が、91.6%いた（【資料18】）。

かんさつにつきをかくために、あつてよかったものをおしえてください。

ふわふわたいむ 91.6% (60人中55人)

【資料18】実践後アンケート「シールで価値付けるふわふわタイム」

このことから、蕾を確認しながらシールを貼って価値付ける活動が、語句の理解を助け、ペアの児童や自分が書いた語句のよいところに気付くことにつながったと考える。

また、児童が書いた振り返りを見ると、「しいるをはったことばがいまでもかける」と記述していた。シールを貼って価値付ける活動が、書けるという自信につながったと考える。

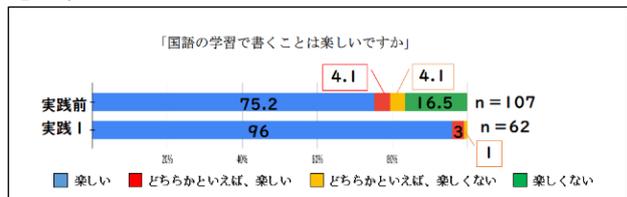
(3) 実践1のまとめ

① 単元を通じて

語彙指導サイクルを単元に繰り返し位置付けたことによる効果を、学級全体の変容に加え、抽出児の変容を分析することで明らかにする。

ア 書くことは楽しいという意識の変容（アンケート）

「国語の学習で書くことは楽しいですか」という質問に対して実践1で肯定的に回答（楽しい、どちらかというとな楽しい）した児童が19.7%増加し、99.0%であった（【資料19】）。



【資料19】書くことの楽しさに関するアンケート結果

また、アンケートの記述を見ると「あさがおのことがよくわかった」など書くことでアサガオが認識できたことや、「あさがおのことばがいっぱいかけた」「いろいろなことばがかけた」など語句の量と質の両面から豊かに表現できたことを楽しいと感じていることがわかる。このように、書くことの機能に楽しさを感じている児童が、認識については8.0%、表現については48.3%いた（【資料20】）。

	認識	伝達・親	記憶	思考	情緒	記録
実践前 n=107	0人 0.0%	2人 1.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	3人 2.8%	0人 0.0%
実践後 n=62	5人 8.0%	30人 48.3%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%

【資料20】楽しさの理由を書くことの機能に見いだした児童の割合 以下に抽出児について述べる。

A児は、書くことは楽しいと答えた。理由を見ると、

言葉を増やせたこと、色がわかったこと、今でも書けることについて記述していた。実践前と比べて、認識、表現など、書くことの機能に楽しさを感じることができている。

B児は、書くことは楽しいと答えた。理由を見ると、友達のアサガオがわかったことが楽しいと記述し、実践前と変わらず、書くことの機能には楽しさを感じていない。

C児は、実践前は楽しくないと感じていたが、実践後には、書くことは楽しいと答えた。理由を見ると、観察したことが楽しかったと記述し、書くことの機能に楽しさを感じていない。

イ 使う語句の変容 (作品)

実践前と実践1で書いた観察日記を比較し、使う語句の変容を見る。

延べ語数 (語)	実践前 (人) n=101	実践1 (人) n=100	増えた延べ語数 (語)	人数 (人) n=99
0	10	0	0	3
1	30 C児	0	1	1
2	13	1	2	2
3	10 B児	1	3	0
4	9	0	4	7
5	10	5	5	7
6	2	3	6	6
7	4	3	7	6
8	4 A児	7	8	3
9	1	5	9	9 A児
10	3	6	10	5 B児
11	0	6	11	9
12	0	8	12	3
13	2	4 B児	13	7
14	1	5	14	6
15	1	7	15	7 C児
16	0	6 C児	16	2
17	1	4 A児	17	4
18		4	18	1
19		4	19	2
20		4	20	3
21		4	21	1
22		2	22	1
23		4	23	2
24		2	24	1
25		3	↓	
26		0	31	1
27		0		
28		0		
29		1		
↓				
41		1		

【資料22】 実践前と実践1の単元の最後に書いた観察日記を比較して増えた述べ語数

【資料21】 実践前と実践1の単元の最後に書いた観察日記の延べ語数

まず、延べ語数を比較すると、実践前には、種の様子を表す語句を使って観察日記を書くことができない児童は10人いたが、実践1には、全ての児童がアサガオの様子を表す語句を使って観察日記を書くことができた (【資料21】)。

次に、一回の観察日記で書いた延べ語数について、個人では語句が増えたのかを見ると、実践1には、96.9%の児童が1語以上語句を増やしていた (【資料22】)。最も多い児童は、実践前に比べて31語増えていた。一方で、異なり語を使っているが、数として増えていない児童は3人いた。

さらに、複数の語句を組み合わせて書くことができた児童は、実践前に比べて、43.2ポイント増えた (【資料23】)。

比喩を含む名詞・形容詞・動詞、オノマトペを含む副詞などの語句を使って書く。	68人中61人 89.7%	69人中69人 100%
比喩を含む名詞・形容詞・動詞、オノマトペを含む副詞など複数の語句を組み合わせて書く。	68人中15人 22.0%	69人中45人 65.2%
複数の事柄から、比喩を含む名詞・形容詞・動詞、オノマトペを含む副詞など複数の語句を組み合わせて書く。	68人中3人 4.4%	69人中14人 20.2%

【資料23】 最後に書いた観察日記で語句を組み合わせた児童の割合以下に抽出児について述べる。

A児は、延べ語数が9語増えた。単元を通して異なり語数を見ると、使う語句が34語増えていた。

B児は、延べ語数10語増えた。単元を通して異なり語数を見ると、使う語句が33語増えていた。

C児は、延べ語数が15語増えた。単元を通して異なり語数を見ると、使う語句が22語増えていた。

繰り返し観察日記を書くことで、語彙を豊かに表現できたことが楽しいと感じていた。そして、実際に書ける語句の量が増えたり、種類が広がったりした。これらのことから、語彙指導サイクルを単元に繰り返し位置付けたことは、語彙の量と質を豊かに表現し、楽しんで書くことに有効であったと考える。

A児の変容からは、繰り返し観察日記を書くことで、書けるという自信につながり、1回の日記で書く語句数は変わらなくても、いろいろな語句が書けたと、異なり語数が増えたことを実感できれば、書くことの機能に楽しさを感じることがわかった。

一方で、B児とC児の変容からは、書くことは楽しいと感じた理由として、活動の楽しさを感じたことが影響したのか、書ける語句が増えたことの実感が影響したのか、両方ともに影響を与えたのかわからなかった。

② 成果

- 見通す場面の言葉あてクイズで、ICTの共有機能を活用して語句を出し合い、比喻やオノマトペ、類義語や対義語で整理を行えば、自分が使う語句以外の語句に触れることで、観察日記で使う語句の増やし方を見通すことができるとわかった。ICTの共有機能を活用すると、短い時間でより多くの児童の語句を全体で共有できることや、やりとりをしながら、さらに語句を増やすことができた。
- 集める場面で、比喻やオノマトペ、類義語、対義語、比較や、位置を表す語も使いながら、観察の観点からペアを組んで語句を集めたり、ヒントカードを提示したりすれば、観察日記で使う語句を増やすことができるとわかった。
- 見付ける場面で、集めた語句からアサガオの様子がよくわかる語句を選択するよう伝え、書きたいことを見付けて観察日記を書くことができた。
- 気付く場面で、ペアを組んで価値付け合うという友達と関わる場を設定すれば、ペアの児童や自分が書いた語句のよさに気付き、使いこなせる語句を増やすという自信につながることがわかった。

③ 課題

- ペアの児童と同じものを見たり、体験したりする中で、語句を集める必要がある。
- 語句を組み合わせるよさに児童が気付くような手だてが必要である。
- 書くことの機能に楽しさを見出すことができているか検証するためのアンケートに変更する必要がある。
- 見通す、集める、見付ける、気付くという語彙指導は、1単位時間だけでなく、単元の語彙指導過程としても位置付くと考えられるため、実践2では、単元における語彙指導過程の在り方を明らかにする必要がある。

7 研究の実際 実践2

第1学年

単元名「虫となかよし～しらせる文しょうをかこう～」

(1) 実践2のねらい

① 研究のねらい

虫の観察日記における語彙を豊かにし、楽しんで書くために、「広げ整理する・価値付ける」語彙指導サイクルの在り方を明らかにする。

② 単元の目標

○ 色や形など五感で感じたことを表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。 [知識及び技能] (1)オ

○ 観察したことなどから書くことを見付け、必要な語句を集めたり、確かめたりすることができる。

[思考力、判断力、表現力等] B(1)ア

○ 言葉がもつよさを感じ、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

③ 単元計画 (全8時間)

単元内での語彙指導	学習活動	配時
第1次 見通す	1 虫を知らせる文章を書くという学習の見通しを話し合う。	1
第2次 集める 見付ける	2 語句を集めて観察日記や知らせる文章を書き、使われている語句など表現のよいところを見付ける。 【1単位時間の語彙指導】	6
第3次 気付く	3 虫を知らせる文章を書くという学習を通して、学んだことを話し合う。	1

④ 授業の主眼

語句を広げ、整理する対話活動と書いたものを自他によって価値付ける活動を通して、観察日記や知らせる文章で使用する語句を増やし、観察日記や知らせる文章を書くことができる。

(2) 実際と考察 [4/8時]

第4時は、虫の様子を表す語句を増やし、観察日記を書くことをねらいとした。

① 見通す場面 (題材の設定、情報の収集)

ア 実際

語句の増やし方を見通すために、言葉あてクイズを行う中で、語句を出し合い、整理した(【資料24】)。

まず、動きの語句を隠して代表児童の観察日記を提示し、その後、ダンゴムシの動きがわかる動画を提示した。「どんな動きと書いたでしょう」と問いかけ、ムーブノートで作成したカードに語句を書いて出させた。すると児童は「ちょこちょこ」「へびみたい」などと書いた。児童が書いた語句を基に「ちょこちょこどうしてた」「歩くの反対は」など、オノマトペに続く語句や対義語を問い、3分間のやりとりを行った。すると児童は「ちょこちょことりみたいにあるく」、

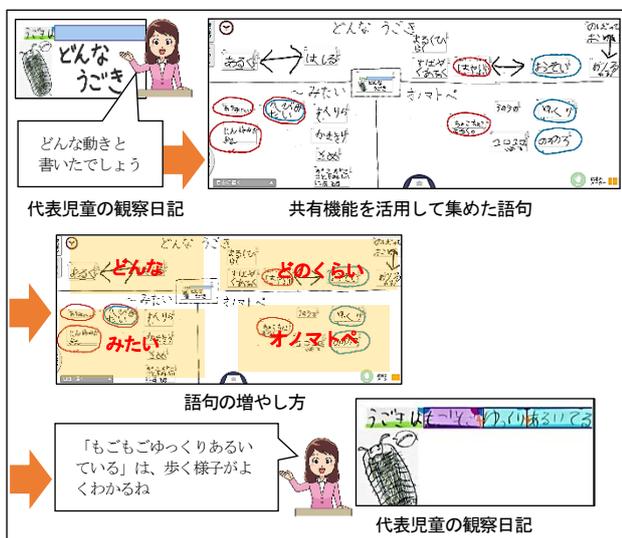
「はしる」などを書いた。3分間で31人中全員から合計53枚のカードが届いた。

次に、児童とのやりとりを通してカードの整理を行った。「歩くの反対は」と問うと「走る」と答えたので、「あるく」と「はしる」のカードを反対の矢印で結んだ。続けて、「速いの反対は」と問うと、「遅い」「ゆっくり歩く」と答えたので、「おそい」と「ゆっくり」を青で囲んだ。このように、反対の矢印を書いたり、似ている色の語句を丸で囲んだりして、類義語や対義語で整理した。

その後、動きを表す語句の多さに触れ、クイズの答えを提示し、ダンゴムシの動きにぴったりの語句を選んでいることを称賛した。ここでは、歩く様子を表す語彙の豊かさに触れることをねらいとし、「うごきはもごもごゆっくりあるいている」と語句を組み合わせさせて書いた児童の観察日記を提示した。

さらに、「もごもごゆっくりあるいている」と「あるく」を比較提示し、どちらがよいか尋ねた。児童は、「わかりやすい、詳しい」という理由から「もごもごゆっくりあるいている」の方がよいことを発言した。児童の発言を基に、「言葉を足すと虫の様子を詳しく表すことができそう」と伝え、「観察日記にはどんなことを書きたいですか」とめあてにつないだ。すると、児童は、「言葉を足してわかりやすい観察日記を書こう」「言葉いっぱい観察日記を書こう」などと発言し、各自のめあてをペアの児童に伝えた。

最後に、児童が提出したカードを使って、「どんな、どのくらい、みたい、オノマトペ、にていることば」という語句の増やし方を確認した。



【資料24】語句を出し合い、整理する過程

以下に抽出児の様子を述べる。

A児は、動画に映ったダンゴムシと自分が育てているダンゴムシの動きを見比べた。クイズが始まると、「よこ」と書いて提出した。そして、自分が育てているダンゴムシを見て「まるくひらく」と書いて2枚目のカードを提出した。全体で集まったときは、スクリーンを見たり、教師の話や友達の声の聞いたりしていた。

B児は、クイズが始まって16秒後に「あ」と書いて消し「おそい」と書き直して提出した。その後、「ちょこちょこどうしてた」という問いかけに対して「あるいてた」という声を聞き、2枚目のカードに「あるく」と書いて提出した。さらに、「はしる」「コロコロあるく」と書き、全部で4枚提出した。全体で集まったときは、「歩くの反対って何」と問うと、「走る」と答え、やりとりに参加した。カードを整理する際は、身を乗り出して見ていた。語句を組み合わせるよさについての全体交流では、「足すをした方がいっぱい言葉を表すことができます」と発言し、「言葉を足すと虫の様子を表せるということですか」と確認すると2回うなずいた。そして、「言葉を足して観察日記を書こう」というめあてをペアの児童に伝えた。

C児は、ダンゴムシの動画を見て、「あつすごい」とつぶやいた。「ダンゴムシはどんな動きだった」という教師の問いかけに対しては、「ちょこちょこ」と答えた。クイズが始まると、ペアの児童に「ちょっとどうやって書くの」と聞き、カードに「ちょこちょこあるく」と書いて提出した。提出して21秒間スクリーンを見て、「ありみたい」と2枚目を書いた。全体で集まったときは、体をもぞもぞと動かしながら、スクリーンを見たり、教師の話や友達の声の聞いたりしていた。

イ 考察

実践2で行ったアンケートから、観察日記を書くために、言葉あてクイズがあつてよかったと感じている児童は、93.3%いた（【資料25】）。

かんきつにつきをかくために、あつてよかったものをおしえてください。	
ことばあてクイズ	93.3% (60人中56人)

【資料25】実践後アンケート「言葉あてクイズ」

93.3%の児童にとっては、言葉あてクイズが、観察日記で使う語句の増やし方を見通すことにつながった。特に、「言葉を足してわかりやすい観察日記を書こう」「言葉いっぱい観察日記を書こう」というめあての言葉から、語句を組み合わせさせて書いた児童の観察日記を提示し、1語で表したものと比較してよさを共有したことが、よいモデルとなり、観察日記で使う語句の増やし方を見通すことにつながったと考える。

ICT活用については、児童全員からカードが届いたことから、実践1同様、短い時間でより多くの児童が書いた語句を全体で共有できる点で有効であると考えた。また、共有したカードを見ることで、語句をまねしたり、思いついたりすることができ、一人一人の語句を増やすことにつながったと考える。

② 集める場面（題材の設定、情報の収集）

ア 実際

虫の様子を表す語句を集めるために、生活科の学習でペアの児童と一緒に育てている虫を観察しながら、五感で感じたことを書く活動を設定した（【資料26】）。その際、観

察の観点（色、形、大きさ、数、動き）ごとに、語句をまとめたヒントカードを掲示し、語句を集めるときの参考にするよう促した。すると児童は、虫を見たり、ヒントカードを見たりして、プリントに書いた。ヒントカードを掲示している場所では、「ダンゴムシこんぐらだよね」とダンゴムシの太さを手で表しながらペアの児童と話す姿があった。また、「はやい、すばやい」などの類義語や「とまる、あるく、はしる」などの対義語を指でなぞる姿も見られた。このように、児童は、自分が育てている虫とヒントカードに書いてある語句を比べて虫に合う語句を選んだ。



【資料 26】動きのヒントカードと語句を集める様子

7分経過したところで、体のつくりによって、異なる緑色のバッタの写真（【資料 27】）を提示し、「全部違う緑だからどうしよう」と問いかけた。すると児童は、「鼻は暗い緑、体は明るい緑」「目は薄い黄緑と薄い緑」と発言した。そこで、語句を組み合わせると違う緑色を表すことができると伝え、体のつくりを表す語（【資料 27】）を紹介した。その後、さらに5分間、観察する時間を設定した。すると、虫の体、顔、触角など、体のつくりごとに観察したことを書き加える児童もいた。



【資料 27】バッタの写真（左）と体のつくりを表す語（右）以下に抽出児の様子を述べる（【資料 28】）。

A児は、動きのヒントカードを見て、「ゆっくり歩いたり、速くシューって、丸まったり」とヒントカードの語句を次々に言って、言葉集めプリントの場所に戻った。そして、ダンゴムシの動きを観察した。ペアの児童から誘われ、色のヒントカードを見ると、「そうだ」とつぶやき戻った。教師から「どんな黒だった」と質問を受けると、「うーん」と悩んで再度ヒントカードを見に行った。「薄い黒」と言って戻り「うすいくろ」と色の欄に書いた。全体交流では「鼻は暗い緑だけど体は明るい緑」と発言した。「緑でもいろいろな言葉で表せるんだね」と返すと、うなずいた。交流後、C児が途中まで書いた数の欄に「16 ほん」と続きを書いた。さらにダンゴムシの動きを観察し、「丸くなったり、開いたりお花みたいに」や「腹筋みたいにやってる」と言った。動きの欄には「まるくなったりひらく、ふつきんしてる」と

書き、「できた。2こも書けた」と言った。

B児は、ペアの児童と一緒に動きのヒントカードを見て、「今ね、考えてたんだけど、蝶みたいに飛ぶっていうのを考えてみたんだけど」と言った。ヒントカードをもう一度見ると「バネみたいに」と言って腕組みをし、「浮く」と続けて、思いついたように「バネみたいに浮く」と言い、言葉集めの場所に戻った。「バネみたいに跳ぶだ」と言って、動きの欄に「ばねみたいにとぶ」と書いた。書き終わると「いい言葉みつけた」と言って教師に伝えた。その後は、数のヒントカードを見に行った。写真を指さしながら「足は二つで手が上のほうだ」などと、ペアの児童と触角、頭、羽、手、あしの数を確認した。言葉集めプリントには、「バッタは手が2ほん」と書いた。さらに、色のヒントカードを見に行った。ペアの児童が「柔らかい薄い緑」と言うと、「柔らかい薄い緑、いいね」と言って戻ろうとした。「ぼくは」とヒントカードを再度見に行き、「キャベツみたいな緑」と言って、色の欄には「キッべつ三たいないろ」と書いた。全体交流のときは、先生や友達の話聞いていた。交流後は、大きさのヒントカードを見て、「小石みたいに細い」「細い中指みたい」と言って、大きさの欄に「ほそいなかゆびみたい」と書いた。続けて、形のヒントカードを見に行き、「はりみたいだんご」と言って、形の欄に「はりみたいだんご」と書いた。さらに、動きのヒントカードを見て「トランポリン」と言い「ジャンプみたいな、トランポリンみたい」と書いた。

C児は、動きのヒントカード見て「ゆったりって書いてある」と教師に伝えた。その後、色のヒントカードを見に行こうとペアの児童を誘い、ヒントカードを見て、プリントの色の欄に「くろ」と書いた。教師から「どんな黒だった」と質問を受けると「うーん」と悩んで再度ヒントカードを見に行った。「灰色」とつぶやき、戻った。数のヒントカードでは「足7本」とつぶやき、ダンゴムシを観察して「6本」と言い「あしのかず」まで書くと、タイマーが鳴った。全体交流では、全部違う緑だけどどうしよう」という問いに対して首を傾げた。交流中は、もぞもぞしながら先生や友達の話聞いていた。交流後は、色の欄に「はいいろのくろ」と書いた。

いろ	かたち	大きさ	かす	うごき
くろ うすいくろ はいいろ		ちいさい	あしのかず(6)ほん	まるくなったりひらく ふつきんしてる

A児とC児が書いた言葉集めプリント

いろ	かたち	大きさ	かす	うごき
びんごもみ色に似ている しんごのいろに似ている アサギのいろに似ている	はりみたいだんご	ほそいなかゆびみたい	あしのかず(6)ほん	あしのかず(6)ほん あしのかず(6)ほん あしのかず(6)ほん

B児とペアの児童が書いた言葉集めプリント

【資料 28】言葉集めプリント

イ 考察

実践後に行ったアンケートから、観察日記を書くために、言葉集めがあってよかったと感じている児童が 98.3%、ヒントカードがあってよかったと感じている児童が 96.6%いた（【資料 29】）。

かんさつにつきをかくために、あってよかったものをおしえてください。	
ことばあつめ	98.3% (60人中59人)
ヒントカード	96.6% (60人中58人)

【資料 29】実践後アンケート「言葉集めとヒントカード」

児童の振り返りを見ると「ことばあつめやヒントカードがあったからかんさつにつきがたっくさんかけたよ」「ペアでいっしょにかんがえてかんさつにつきがいっぱいかけた」などと記述していた。このことから、友達と同じ虫を見て語句を集めたり、ヒントカードを見ながら虫の様子を表す語句について話したりしたことが、観察日記で使う語句を増やすことにつながったと考える。

また、B児の言葉集めプリントを見ると、跳ぶという動きを「はねる」「ジャンプ」「ばねみたい」など類義語や比喩を使って記述していた（【資料 28】）。「ぎざぎざ」などオノマトペを使って虫の様子を表す語句を記述していた児童もいた。ヒントカードにある対義語を指でなぞっている姿も含めると、比喩やオノマトペ、類義語、対義語が語句を増やすことにつながったと考える。

一方で、体のつくりを表す語を紹介したが、言葉集めプリントに書く児童はあまりいなかった。これは、児童が体のつくりごとに観察する必要を感じていないことが原因だと思われる。

③ 見付ける場面（内容の検討、構成の検討、考えの形成、記述、推敲）

ア 実際

観察日記に書きたいことを見付けさせるために、めあてを確認して、集めた語句から虫の様子がわかる語句を選択するよう伝えた。そして、言葉あてクイズで提示した代表児童が書いた観察日記を再提示し、語句を足すと虫のことが詳しくわかるよさがあったことを確認し、観察日記を書くように促した。すると児童は、ペアの児童が書いた語句も含め、虫を観察しながら集めた語句から選んだり、言葉集めのときにペアの人と話したことを思い出したりしながら、全員が虫の様子を表す語句を使って観察日記を書いた。

以下に抽出児の様子を述べる（【資料 30】）。

<p>A児は、集めた語句から選んで、数、色、動き、大きさの観点に太さを加えて書いた。語句を組み合わせ、「うすいくろ」と書いた。</p>
<p>B児は、「言葉を足して観察日記を書こう」という自分のめあてを言って、観察日記を書き始めた。言葉集めプリントに書いた「キャベツみたいないろ」と「やわらかいうすいみどり」を見て、観察日記には、「キャベツみたいなやわらかいみどりいろ」と書いた。このように、集めた語句をさらに組み合わせる姿があり、B児は、めあてを意識して観察日記を書いていた。最終的に</p>

は、色、形、数、動きの観点について書き、色、大きさ（太さ）、動きの観点については、語句を組み合わせで書いた。

C児は、集めた語句から選んで、色、数、動き、大きさの観点について書いた。

【資料 30】抽出児の観察日記

イ 考察

全員が9分以内に観察日記を書き終えた。集めた語句から虫の様子がわかる語句を選択するよう伝えたことが、書きたいことを見付けて観察日記を書くことにつながったと考える。

A児、B児の観察日記を見ると、語句を組み合わせていた。言葉あてクイズや言葉集め、さらに観察日記を書く前にもよさを共有したり、めあてを確認したことが、語句を組み合わせで書くことにつながったと考える。

④ 気付く場面（共有）

ア 実際

自分の書いた語句のよいところに気付くために、虫の様子がわかる語句にシールを貼って価値付ける活動を設定した（【資料 31】）。

まず、ペアの児童と観察日記を交換し、桃色シールを貼るよう伝えた。すると児童は、声に出して読んだり、わからない語句をペアの児童に確かめたりしていた。

次に、自分の観察日記に水色シールを貼り、振り返りを書くよう伝えた。すると児童は、桃色シールと同じところや、違うところに水色シールを貼り、振り返りを書いた。

【資料 31】シールを貼って価値付ける様子

最後に、めあてが達成できたかを全体に聞き、次時の予告をした。

以下に抽出児の様子を述べる（【資料30】【資料32】）。

A児は、色、数、動き、大きさ全てに桃色シールを貼った。水色シールは、桃色シールと違うところにも貼っていた。振り返りでは、「ことばあつめ」と「かんさつにつき」の両方の項目について「いっぱいかけた」まで色を塗った。そして、全体交流では、自分のめあてが達成できたと挙手をして、「いっぱい書いていたら、自分が今育ててる虫が居なくなってもずっとなかよしくなっています」と発言した。

B児は、ペアの児童が書いた語句を声に出して読んだり、わからないところはペアの児童に確認したりしていた。「ぴいまんみたいにうすいみどり」を読んで、「これいいね、これわかりやすい、めっちゃ足してる」と言っただけで桃色シールを貼った。また、水色シールを貼る際は、声を出さずに読み、自分が書いたことを確かめた。振り返りでは、言葉集めも、観察日記も「いっぱいかけた」まで色を塗った。そして、自分のめあてが達成できたと挙手をした。

C児は、ペアの児童が書いた語句を声を出さずに読み、数、色、動き、大きさ、太さ全てにシールを貼った。自分の観察日記も声を出さずに読んでシールを貼り、振り返りを書いた。振り返りでは、言葉集めも、観察日記も「いっぱいかけた」まで色を塗った。

←A児の振り返り

←B児の振り返り

←C児の振り返り

【資料32】抽出児の振り返りの記述

イ 考察

実践後に行ったアンケートから、観察日記を書くために、シールを貼って価値付けるふわふわタイムがあつてよかったと感じている児童が、95.0%いた（【資料33】）。

かんさつにつきをかくために、あつてよかったものをおしえてください。	
ふわふわタイム	95.0% (60人中57人)

【資料33】実践後アンケート「シールで価値付けるふわふわタイム」

観察日記を読んで語句を確かめる様子から、95.0%の児童にとっては、シールを貼って価値付ける活動が、語句の理解を助け、ペアの児童や自分が書いた語句のよいところに気付くことにつながったと考える。

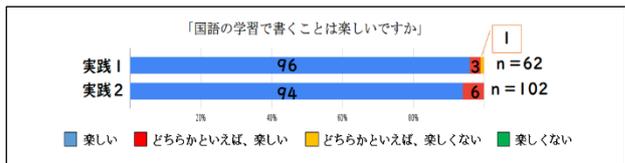
(3) 実践2のまとめ

① 単元を通じて

語彙指導サイクルを単元に繰り返し位置付けたことによる効果と、単元における語彙指導過程の在り方を、学級全体の変容に加え、抽出児の変容を分析することで明らかにする。

ア 書くことは楽しいという意識の変容（アンケート）

実践1と実践2の後に行ったアンケートを比較すると、「国語の学習で書くことは楽しいですか」という質問に対して、肯定的に回答（楽しい、どちらかといえば、楽しい）した児童の割合は1%増加し、100%になった（【資料34】）。



【資料34】書くことの楽しさに関するアンケート結果

また、実践2では、書くことが楽しい理由について、書くことの機能（認識、伝達・表現、記憶、思考、情緒、記録）で項目（【資料35】）を挙げたアンケートと自由記述を行った。アンケートでは、全ての項目で80人を超え、全員が書くことの機能に楽しさを感じていた（【資料35】）。

たのしい ・ どちらかというたのしい

りゆうに ○をつけてください。(いくつでも)

- 認識** 虫のことが、わかるから。いろやかたちなどのことばが、わかるから。
- 思考** 虫のこども、かんがえられるから。虫にぴったりなことばを、かんがえられるから。
- 表現** 虫のかんさつにつきが、かけるから。虫をしらせる文しょうが、かけるから。いろやかたちなど、虫のことばが、かけるから。
- 記憶** 虫のこども、おぼえることができるから。
- 情緒** かいたら、わくわくしたり、おちついたりするから。
- 記録** おもいだすことができるから。のこしておくことができるから。

←アンケート項目

←実践2 アンケート結果

認識	90
伝達・表現	93
記憶	91
思考	88
情緒	83
記録	99

n=102

【資料35】書くことの機能について項目立てたアンケートと結果

記述を見ると、「大きさのことばがわかった、虫のことがよくわかる」など虫の様子を表す言葉が認識できたことや、「虫のことをいっぱいかんがえられた」など虫の様子を表す言葉について思考できたこと、「かんさつにつきやしらせる文しょうがかけた、いろいろなことばがいっぱいかけた」など語句を増やし、語彙を豊かに表現できたことを楽しいと感じていた。さらに「おぼえられる」など記憶できること、「おもいだせる」など記録できることも楽しいと感じていた。

以下に抽出児について述べる。

A児は、書くことは楽しいと答えた。理由を見ると、書くことの機能の全項目に丸を付け、いろんな言葉を集めた、いっぱい言葉が書けた、他の学習でも長く書けるようになったと記述していた。これは、実践1同様、書くことの機能の表現に楽しさを感じている。さらに、量と質の両面から充実した表現ができたことについて楽しさを感じることができた。

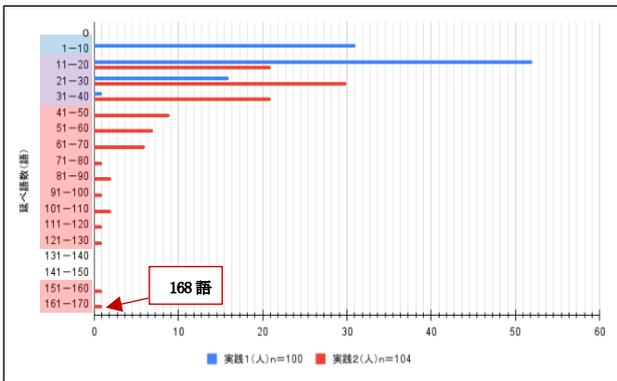
B児は、書くことは楽しいと答えた。理由を見ると、書くことの機能の全項目に丸を付け、観察日記を見れば思い出せると記述していた。実践1と比べて、書くことの機能の表現や記録性について楽しさを感じることができた。

C児は、書くことは楽しいと答えた。理由を見ると、書くことの機能の全項目に丸を付け、いっぱい書けたことが楽しかったと記述していた。実践1と比べて、表現について楽しさを感じることができた。

イ 使う語句の変容 (作品)

実践1の最後に書いた観察日記の文章と、実践2の最後に書いた知らせる文章を比較し、使う語句の変容をみる。

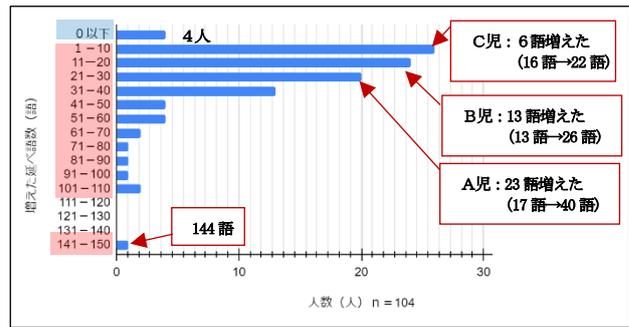
まず、延べ語数を比較すると、実践1では、1語以上40語以下であったが、実践2では全員が11語以上使い、40語以下は68.0%だった。残りの32.0%の児童は、41語以上使っており、最も多く書けた児童は168語使っていた (【資料36】)。



【資料36】 実践1と実践2の延べ語数

次に個人での語句の量の変化を見ると、実践2では、96.0%の児童が語句を増やした (【資料37】)。最も多い児童は、実践1に比べて144語増えていた。一方で、異なり語を使っているが、数として増えていない児童は4人いた。

そして、98.0%の児童が、比喩を含む名詞・形容詞・動詞、オノマトペを含む副詞など複数の語句を組み合わせることができた。さらに、色と形など複数の事柄から、語句を組み合わせさせて書いた児童は、実践1に比べて57.6ポイント増加し、77.8%だった (【資料38】)。知らせる文章に見られた語句の組み合わせは、【資料39】にまとめた。



【資料37】 実践1と実践2を比較して増えた延べ語数

	実践1 n=69	実践2 n=104
比喩を含む名詞・形容詞・動詞、オノマトペを含む副詞などの語句を使って書く。	69人中69人 100%	104人中104人 100%
比喩を含む名詞・形容詞・動詞、オノマトペを含む副詞など複数の語句を組み合わせさせて書く。	69人中45人 65.2%	104人中102人 98.0%
複数の事柄から、比喩を含む名詞・形容詞・動詞、オノマトペを含む副詞など複数の語句を組み合わせさせて書く。	69人中14人 20.2%	104人中81人 77.8%

【資料38】 実践1と実践2で語句を組み合わせさせて書いた人数の割合

観察の観点	知らせる文章に見られた語句の組み合わせ
色	<p>【名詞 (比喩) と名詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夕焼けみたいな (茶色、オレンジ) ・チョコレートみたいな茶色 <p>【名詞 (比較) と形容詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チョコレートより濃い <p>【形容詞 (対義語) と名詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薄い (黒、茶色、緑、白、鼠色、グレー、黄色、ピンク) ⇔濃い (茶色、赤、緑、黒、オレンジ、灰色) ・明るい (茶色、黒、黄色) ⇔暗い (紫、黄色) <p>【名詞と動詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶色と黒が混ざった色 <p>【副詞と名詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キラキラの黒 <p>【名詞 (比喩) と形容詞と名詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャベツみたいな明るい黄緑 ・ピーマンみたいな薄い緑
形	<p>【名詞と名詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸の半分 ・アイスの棒 ・ピエロの靴 ・木の枝 ・猫のひげ <p>【名詞 (比喩) と名詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・針みたいに真っ直ぐ <p>【名詞 (比喩) と形容詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団子みたいに丸い <p>【名詞 (比喩) と動詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (鉛筆の芯、針) みたいに尖っている <p>【名詞 (比喩) と副詞 (オノマトペ) の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・角みたいにびんっとなっている <p>【名詞 (比喩) と形容詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糸みたいに細長い <p>【名詞 (比喩) と形容詞と動詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりみたいに細長くて尖っている <p>【形容詞と名詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (長い、細長い、平べったい) 丸 <p>【副詞 (オノマトペ) と動詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (ぴんと、びんびん、でこぼこ、ちくちく) 尖っている ・ (がたがた、かくっ、くねくね) と曲がっている
太さ	<p>【名詞 (比較) と形容詞 (対義語) の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (バツ、ヘビ) より細い ⇔ 後ろ脚より太い <p>【名詞 (比喩) と形容詞 (対義語) の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (サメの牙、飛行機、ポテト、ヘビ) みたいに細い ⇔ (どんぐり、梯子、キリギリス) みたいに太い

観察の 観点	知らせる文章に見られた語句の組み合わせ	
動き	<p>【名詞 (比喩) と動詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (バネ、バツタ、ウサギ、カエル、忍者) みたいに (跳ぶ、ジャンプする、跳ねる) <p>【名詞 (比喩) と形容詞 (対義語) の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (カタツムリ、カメ、ドリブル) みたいに (速い⇔遅い) <p>【名詞 (比較) と形容詞 (対義語) の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (お母さん、ダンゴムシ、バツタ) より (速い⇔遅い) <p>【名詞 (比喩) と形容詞と動詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コオロギみたいに大きく素早く跳ねる <p>【名詞 (比喩) と副詞 (オノマトペ) と動詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カタツムリみたいにゆっくりてくてく歩く ・ カエルみたいにびよんと跳ねる ・ 小鳥みたいにちょこちょこ歩く <p>【名詞 (比喩) と動詞と副詞 (オノマトペ) と動詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タイヤみたいに丸まってコロコロ転がる <p>【形容詞と動詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (速く、素早く) (歩く、走る、跳ぶ、隠れる、逃げる、ジャンプする) ・ 高く (跳ぶ、ジャンプする) <p>【形容詞 (対義語) と名詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高いジャンプ⇔低いジャンプ <p>【形容詞と副詞 (オノマトペ) と動詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 素早くびよんとジャンプする <p>【副詞 (オノマトペ) と動詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (ゆっくり、ゆったり、ぞろぞろ、ずーるずーる、くねくね、ちょこちょこ、てくてく、とことこ、てけてけ、くるくる、のそのそ、ちまちま、むぐむぐ、うにうに) 歩く ・ ちょこちょこ走る ・ (びんびん、びよんびよん、びよんと) (跳ねる、ジャンプする、跳ぶ) ・ (むしゃむしゃ、もりもり) 食べる ・ ちゅーちゅー吸う ・ さっと逃げる ・ じっと止まる ・ がっしりつかまえる ・ しゅつと隠れる ・ つるんと落ちる ・ (ゆっくり、ちょこちょこ、ぞろぞろ) 潜る <p>【副詞 (オノマトペ) と名詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゆったりお散歩している <p>【副詞 (オノマトペ) と副詞 (オノマトペ) の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゆっくりによるよる <p>【副詞 (オノマトペ) と副詞 (オノマトペ) と動詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (ちびちび、もごもご) ゆっくり歩く <p>【副詞 (オノマトペ) と副詞 (オノマトペ) と名詞 (比喩) の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もごもごゆっくりカメみたい <p>【副詞 (オノマトペ) と名詞 (比喩) と動詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ のそのそカメみたいに歩く <p>【副詞 (オノマトペ) と形容詞 (対義語) と動詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シュッと速く走る ・ パサパサ速く歩く ・ (びよんびよん、びよんと) (高く⇔低く) (跳ぶ、ジャンプする) ・ てくてく素早く走る ・ くるくる速く回る <p>【副詞 (オノマトペ) と形容詞と名詞 (比喩) の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ びよんびよん素早くてカエルみたい <p>【副詞 (オノマトペ) と動詞と名詞 (比喩) の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ びよんびよん跳ねてウサギみたい <p>【副詞 (オノマトペ) と動詞と形容詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パタパタ慌てるように素早い 	
	長さ	<p>【名詞 (比較) と形容詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ネギより短い
	触った 感じ	<p>【名詞 (比喩) と形容詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 豆腐みたいに柔らかい <p>【名詞 (比喩) と副詞 (オノマトペ) の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (ケーキ、石) みたいに (ふわふわ、かちかち) <p>【副詞 (オノマトペ) と形容詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふわふわ柔らかい

大きさ	<p>【名詞 (比較) と形容詞 (対義語) の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (ダンゴムシ、バツタ、カマキリ、クモ、コオロギ、チョウ、アリ、小指、手、小石、どんぐり) より (大きい⇔小さい) <p>【名詞と名詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小指の (半分、爪) <p>【名詞 (比喩) と形容詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (アリ、どんぐり) みたいに小さい <p>【形容詞と名詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小さくなった消しゴム
音	<p>【副詞 (オノマトペ) と動詞の組み合わせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キーンキーンと鳴く

【資料39】 知らせる文章に見られた語句の組み合わせ

以下に抽出児について述べる。

A児は延べ語数が23語増えた。単元を通して異なり語数を見ると、実践2で使用した語句は35語だった。実践1で使用した語句を省くと、実践2で新しく使用した語句は25語あった。また、知らせる文章で「ほかのダンゴムシよりおおきい」「うすいくる」「ゆっくりあるきます」と大きさ、色、動きで語句を組み合わせで書いた。

観察日記1回目

観察日記2回目

観察日記3回目

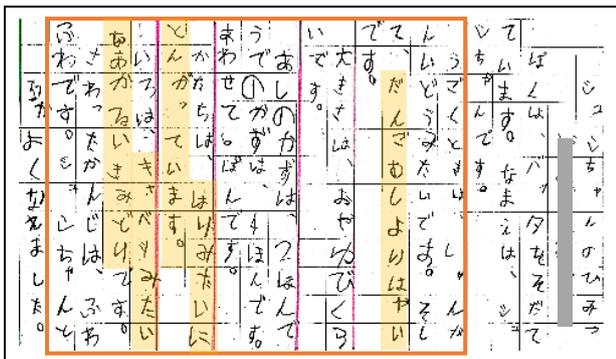
知らせる文章 (オレンジ色の枠内の語句が対象)

B児は延べ語数が13語増えた。単元を通して異なり語数を見ると、実践2で使用した語句は42語だった。実践2で新しく使用した語句は、33語あった。また、知らせる文章では、「だんごむしよりはよい」「はりみたいにとんがっています」「キャベツみたいなあかるいきみどり」と動き、形、色で語句を組み合わせで書いた。

観察日記1回目

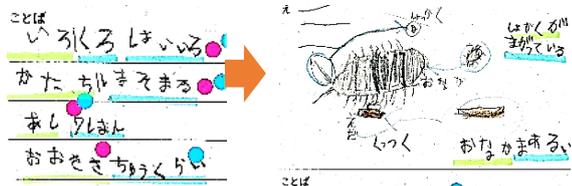
観察日記2回目

観察日記3回目

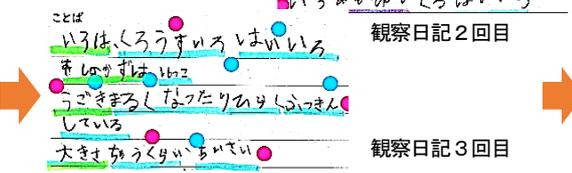


知らせる文章（オレンジ色の枠内の語句が対象）

C児は延べ語数が6語増えた。単元を通して異なり語数を見ると、実践2で使用した語句は34語だった。実践2で新しく使用した語句は、29語あった。また、知らせる文章で「ほかのだんごむしよりおおきい」「ねこのひげみたい」と大きさ、形で語句を組み合わせて書いた。

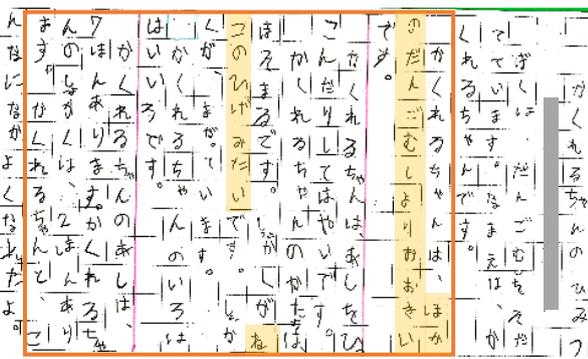


観察日記1回目



観察日記2回目

観察日記3回目

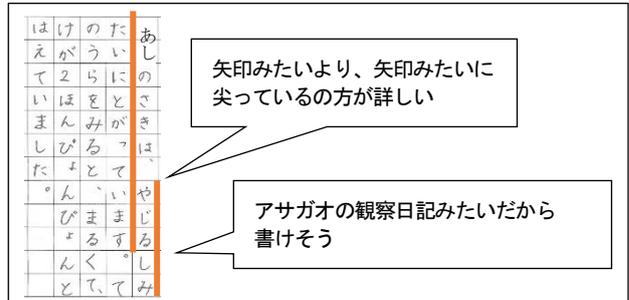


知らせる文章（オレンジ色の枠内の語句が対象）

毎時間の振り返りから、繰り返し観察日記を書くことで、「うごきのことばがわかった」「いつもよりおおくことばをかけた」など、児童は「わかった」「できた」を実感していた。作品分析では、延べ語数が増え、語彙の量が充実した。また、語句を組み合わせた、異なり語数が増えたりしたことから、語彙の質も充実していた。そして、書くことの機能について楽しいと感じていたことから、語彙指導サイクルを単元に繰り返し位置付けたことは、「わかった」「できた」を感じ、語彙の量と質を豊かに表現し、書くことの機能について楽しんで書くことに有効であったと考える。

ウ 単元における語彙指導過程の在り方

第1次は、観察日記や知らせる文章で使用する語句を見通す時間として位置付けた。その際、教師が作成した知らせる文章の一部を提示（【資料40】）し、内容について話し合う場を設定した。すると児童は、「矢印みたいに尖っているが詳しい」「アサガオの観察日記みたい」などと発言した。また、虫だから「動きでも言葉を増やせそう」と発言した児童がいたため、第2次からは、言葉集めプリントに動きの項目を作成し、動きのヒントカードも掲示した。



【資料40】知らせる文章のモデル文の一部

第2次は、観察日記や知らせる文章で使用する語句を集める、見付ける時間として位置付けた。観察日記では、語彙指導サイクルを3回行った。そして、観察日記で集めた語句の中から、知らせる文章に書きたい語句を見付けて書くよう伝えた。すると、児童は、語彙の量と質を豊かに表現した。

第3次は、児童全員分の知らせる文章を並べ、展示会を開き、使用した語句のよいところに気付く時間として位置付けた。この時間までに児童は、「バッタのシュンちゃんのようなすが、いろんなことばでかいてあって、とてもよくわかったよ！」など保護者から感想をもらっている。授業の導入では、展示会に参加した教師からのビデオメッセージを提示し（【資料41】）、児童は、「いっぱい、いろいろな言葉が書けていたこと、てくてく歩くと言葉が詳しいこと」などの感想を聞いた。授業の展開では、展示会に参加した教師の感想を基に、「いっぱい、いろいろ、かわいい」を視点に、児童は、友達を書いた知らせる文章を読んだ。終末では、単元を通して「できたこと、わかったこと」を書く時間を設定した。すると、児童は、これまでに書いた文章を読み返し、使用した語句のよいところに気付くことができた。A児は、いっぱい書けた、色や動きもよくわかった、自分が書く楽しなど記述した。B児は、いろんな動きや色、形が書けた、いっぱい書けたなどと記述した。C児は、言葉がいっぱい書けたなどと記述した（【資料42】）。



【資料41】展示会に参加した教師からのビデオメッセージ

A児 ② できたこと わかったこと
かんさつにいきをいっしょにいかけたよ。しせる
文しょうをいっしょにいかけたよ。おとどちちい
っしょにいかけたよ。いろいろごきよ(わか
た。べあていしよにできました。これまででよ
くわか。ことがよくわかった。じぶんか
くしたのじかたです。

B児 ② できたこと わかったこと
いちばんごきよをいっしょにいかけたよ。しせる
かめりあうけいじがはやくいかにんどう
うごしまか(かけました。ヒントカード)でいっ
よはなんがういっしょにいかけたよ。

C児 ② できたこと わかったこと
しるべをいっしょにいかけたよ。しせる
てこは、いかにんどう。しるべをいっしょに
たわしるべをいっしょにいかけたよ。しせる
た。いっしょにいかけたよ。しせる。

【資料42】単元の振り返りの記述（抽出児）

② 成果

- 見通す場面での言葉あてクイズでは、ICTの共有機能を活用して語句を出し合った後、比喩やオノマトペ、類義語、対義語で整理を行えば、代表児童が観察日記に使った語句と友達がカードに書いた語句が、語句を増やす見通しになることがわかった。また、語句を組み合わせて書いた児童の観察日記を提示し、1語で表したものと比較してよさを共有すると、よいモデルとなることがわかった。
- 集める場面では、五感を存分に使う生活科との関連を図り、生活科の学習でペアの児童と一緒に育てている虫を観察しながら、語句を集めた。友達と同じものを見たり体験したりする中で、比喩やオノマトペ、類義語、対義語で整理したヒントカードを活用しながら、観察の観点で語句を集めると、語句を増やすことができるとわかった。
- 見付ける場面で、集めた語句から虫の様子がわかる語句を選択するよう伝え、語句を組み合わせるよさを共有すると、語句を組み合わせて観察日記を書くことができた。
- 気付く場面のシールを貼って価値付ける活動で、ペアを組んで価値付け合えば、ペアの児童や自分が使った語句のよいところに気付くことができた。

③ 課題

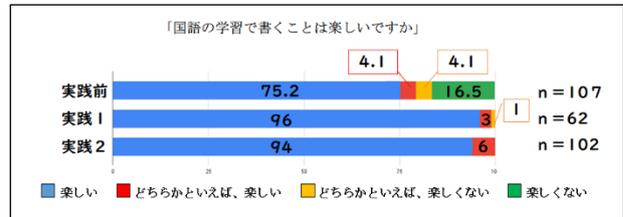
- 集める場面で紹介した虫の体のつくりを表す語は、言葉集めのプリントよりも、見付ける場面で観察日記や知らせる文章を書くときに使っていたため、語彙指導サイクルのどの場面でどんな語を提示するか、吟味する必要がある。
- 見付ける場面で、延べ語数が増えない児童が4人いたことから、様子がわかる語句を選択することを伝えるだけでは、不十分であった。

8 研究のまとめ

① 児童の変容

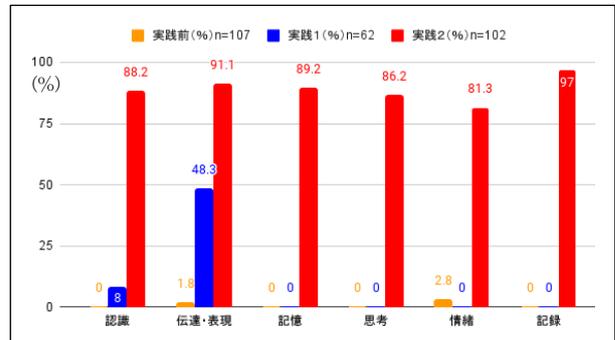
ア 書くことは楽しいという意識の変容（アンケート）

実践前、実践1と実践2の後に行ったアンケートを比較する。「書くことは楽しいですか」という質問に対して、肯定的に回答（楽しい、どちらかという楽しい）した児童の割合の推移を見ると、実践前は79.3%、実践1は99.0%、実践2は100%と、実践を重ねるごとに増え、実践後には、全員が肯定的に回答した（【資料43】）。



【資料43】書くことの楽しさに関するアンケート結果

また、書くことが楽しい理由については、書くことの機能（認識、伝達・表現、記憶、思考、情緒、記録）において、楽しいと回答した児童の割合の推移を見ると、実践前は伝達・表現と情緒、実践1は認識と伝達・表現、実践2は全項目において回答があった。また、本研究で目指した表現することについて楽しいと感じた児童の推移（伝達・表現）を見ると、実践前は1.8%、実践1は48.3%、実践2は91.1%と、実践を重ねるごとに増えた（【資料44】）。ただし、実践前と実践1では楽しい理由の記述から伝達・表現関連を集約し、実践2に限って項目をあげてアンケートを行っている。



【資料44】楽しさの理由を書くことの機能に見いだした児童の割合以下に抽出児について述べる。

A児の書くことは楽しいという意識の変容を見ると、実践前、実践1、実践2全てで書くことは楽しいと答えたことに変化はない。しかし、実践前は楽しい理由の記述がなかったが、実践1で認識と表現について記述し、実践2では量と質の両面から充実した表現ができたことについて楽しさを感じる事ができた。

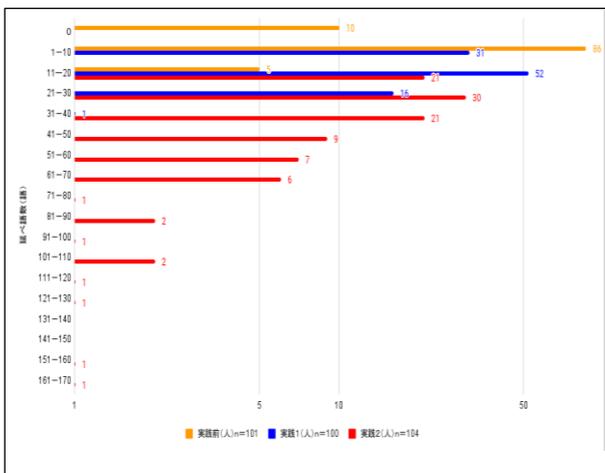
B児の書くことは楽しいという意識の変容を見ると、実践前、実践1、実践2全てで書くことは楽しいと答えたことに変化はない。しかし、実践前と実践1の楽しい理由で書くことの機能に触れていなかったが、実践2では表現できたことや、書くことの記録性について楽しさを感じる事ができた。

C児の書くことは楽しいという意識の変容を見ると、実践前は楽しくないと答え、実践1以降は、楽しいと答えた。理由を見ると、実践1では書くことの機能に触れていなかったが、実践2で表現できたことについて楽しさを感じることができた。

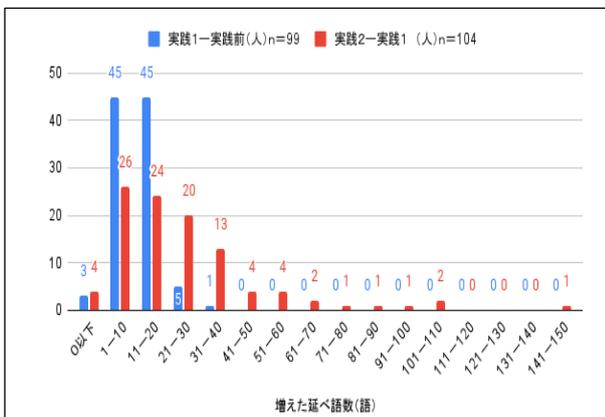
イ 使う語句の変容 (作品)

実践前、実践1、実践2の作品を分析し、比較する。

語彙の量について、延べ語数の推移を見ると、実践前は0~17語、実践1は1語~41語、実践2は11語~168語と、実践を重ねるごとに増えた(【資料45】)。また、個人での語句の量の変化を見ると、実践前と比較すると実践1では97.0%、実践1と比較すると実践2では96.0%の児童が語句を増やしていた(【資料46】)。実践前と実践後と比較すると、全員が語句を増やすことができた。



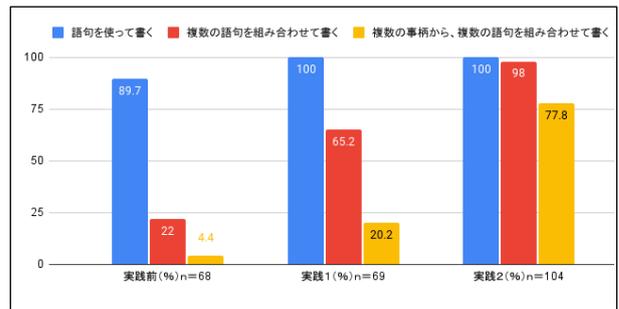
【資料45】 実践前、実践1、実践2の延べ語数



【資料46】 実践前と実践1、実践1と実践2を比較して増えた延べ語数

語彙の質について、語句を組み合わせた児童は、実践前が22.0%、実践1で65.2%、実践2では98.0%になった。さらに、色と形など複数の事柄から、語句を組み合わせた児童は、実践前は4.4%だったが、実践1で20.2%、実践2では77.8% (【資料47】) で、実践を重ねるごとに増加した。

また、【資料39】を基に、実践2で児童が使った語句の組み合わせを品詞で分析し、観点でまとめた(【資料48】)。すると、動きは副詞や動詞の語句を集めやすいなど、観点が品詞に関わることがわかった。



【資料47】 実践前、実践1、実践2で語句を組み合わせた人数の割合

観点	品詞とその内容 ※語数の多い順で整理	語数
色	名詞 (色の下位語と、色から連想される語句)	18語
	形容詞 (薄い⇔濃い、明るい⇔暗い)	4語
	動詞 (混ざる)	1語
	副詞 (キラキラ)	1語
形	名詞 (形の下位語と、形から連想される語句)	18語
	副詞 (形から連想される語句)	8語
	形容詞 (形の下位語に「い」が付く言葉)	4語
	動詞 (尖る、曲がる)	2語
大きさ	名詞 (対象の大きさから連想される語句)	14語
	形容詞 (大きい⇔小さい) 2語	2語
触った感じ	名詞 (触った感じから連想される語句)	3語
	副詞 (触った感じから連想される語句)	2語
	形容詞 (柔らかい)	1語
長さ	名詞 (長さから連想される語句)	1語
	形容詞 (長い⇔短い)	1語
動き	副詞 (動きから連想される語句)	32語
	動詞 (動きの下位語)	17語
	名詞 (動きから連想される語句)	15語
	形容詞 (速い⇔遅い、素早い、高い⇔低い、大きい)	6語
太い	名詞 (太さから連想される語句)	10語
	形容詞 (太い⇔細い)	2語
音	動詞 (鳴く)	1語
	副詞 (音から連想される語句)	1語

【資料48】 観点によって品詞ごとに増えた語句

さらに、形容詞は、特に対義語で語句を増やすことができ、名詞は、比喩と比較で語句を増やすことができることがわかった(【資料49】)。

形容詞と対義語
薄い⇔濃い、明るい⇔暗い、大きい⇔小さい、硬い⇔柔らかい、長い⇔短い、速い⇔遅い、高い⇔低い、太い⇔細い
名詞と比喩・比較
・比喩 (何かに例えて) 夕焼けみたいな茶色など
・比較 (他の生き物の語句や観点から連想される語句と比べて) ダンゴムシより大きい、チョコレートより濃い色

【資料49】 形容詞と名詞の増やし方

以下に抽出児について述べる。

<p>A児が単元の最後に書いた文章における延べ語数の推移を見ると、実践前は8語、実践1で17語、実践2では40語書いた。また、単元を通して書いた文章の異なり語数の推移を見ると、実践前は6語、実践1で34語、実践2では35語だった。実践前に使用した語を省くと、実践を通して使用した異なり語は、57語あった。さらに、実践2では、大きさ、色、動きの3観点で語句を組み合わせ書いて書いた。実践を重ねるごとに語彙の量と質を豊かに表現することができた。</p>
<p>B児が単元の最後に書いた文章における延べ語数の推移を見ると、実践前は3語、実践1で14語、実践2では26語書いた。また、単元を通して書いた文章の異なり語数の推移を見ると、実践前は3語、実践1で32語、実践2では42語だった。実践を通して使用した異なり語は、65語あった。さらに、実践2では、動き、形、色の3観点で語句を組み合わせ書いて書いた。実践を重ねるごとに語彙の量と質を豊かに表現することができた。</p>
<p>C児が単元の最後に書いた文章における延べ語数の推移を見ると、実践前は1語、実践1で16語、実践2では22語書いた。また、単元を通して書いた文章の異なり語数の推移を見ると、実践前は1語、実践1で22語、実践2では29語だった。実践を通して使用した異なり語は、51語あった。さらに、実践2では、大きさ、形の2観点で語句を組み合わせ書いて書いた。実践を重ねるごとに語彙の量と質を豊かに表現することができた。</p>

学級全体の変容と抽出児の変容から、語彙指導サイクルを単元に繰り返し位置付けることで、語彙の量と質が充実し、語彙を豊かに表現することを楽しんで書くことができたことがわかった。

② 研究の成果

- 「広げ整理する・価値付ける」語彙指導サイクルを意識して単元に位置付け、見通す、集める、見付ける、気付くという四つの場面を設定した語彙指導の手順を踏むことにより、友達との関係性の中で「わかった」「できた」「伝わった」という達成感を感じ、語彙の量と質を豊かに表現することを楽しいと感じることができたことが明らかになった。
- 語彙指導サイクルの在り方として今回ポイントとしたことを語彙指導の場面ごとに以下の表にまとめた。

語句を広げ整理する活動の在り方	
見通す場面 言葉あてクイズ	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの共有機能を活用した語句の共有 ・比較やオノマトペ、類義語、対義語による語句の整理 ・1語で表現したものと語句を組み合わせているものの比較提示
集める場面 言葉集め	<ul style="list-style-type: none"> ・比較やオノマトペ、類義語、対義語で整理したヒントカードの掲示 ・位置を表す語句の紹介

	<ul style="list-style-type: none"> ・色や動きなどの観点の共有 ・ペアの児童と同じものを見たり体験したりすること（生活科と文種の関連）
見付ける場面 選択	<ul style="list-style-type: none"> ・様子がわかる語句の選択 ・語句を組み合わせるよさの共有
書いたものを自他によって価値付ける活動の在り方	
気付く場面 シールで価値付け	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアの児童からシールを貼ってもらった後で、自分でシールを貼る

③ 研究の課題

- 低学年の発達を踏まえ、本研究では、語彙の質について、比喩を含む名詞・形容詞・動詞、オノマトペを含む副詞など複数の語句を組み合わせる書く姿として測った。しかし、中学年への接続として、相手に通じるように書くことをめざすことを考えると、自分が選んだ語句がよりよく他者に伝わっているのかという他者評価を入れるなど、発達段階に合わせた語彙の質の測り方を探る必要がある。
- A児は、実践2の後のアンケートで、他の学習でも長く書けるようになったと記述していたため、話を聞くと、生活科で書いたどングりの観察文や学習発表会の感想文でもたくさん書けたと話した。本研究で取り組んだ、語彙指導サイクルを記録・報告文以外の文種でも実証を試み、一般化を図っていきたい。

引用文献

- 1 国立教育政策研究所教育課程研究センター 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 国語】 P10 東洋館出版社 (2020)
- 2 国立教育政策研究所 平成25年度全国学力・学習状況調査報告書クロス集計 P40-41 (2013)
- 3 国立教育政策研究所 OECD生徒の学習到達度調査2018年調査(PISA2018)のポイント P4 (2019)
- 4 福岡市教育委員会 第2次福岡市教育振興基本計画 P15-16 (2019)
- 5 福岡市教育委員会 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について P7,10 (2021)
- 6 文部科学省 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編 P8 東洋館出版社 (2017)
- 7 大熊徹(監修) 「書くこと」の言語活動25の方略教育出版 P45 (2014)
- 8 森幸彦 書けない子・書きたがらない子も夢中になる! 作文指導の技術 P30 学陽書房 (2015)
- 9 鹿毛雅治 学習意欲の理論-動機づけの教育心理学 P184-185 金子書房 (2020)
- 10 田中博晃/廣森友人 英語学習者の内発的動機づけを高める教育実践的介入とその効果の検証 P63 (2007)
- 11 石黒圭 語彙力を鍛える 量と質を高めるトレーニング P36, 210 光文社 (2017)

参考文献・参考資料

- 1 阪本一郎 新教育基本語彙 学芸図書 (1984)
- 2 日本国語教育学会 豊かな言語活動が拓く国語単元学習の創造Ⅲ小学校低学年編 東洋館出版社 (2010)
- 3 石黒圭／柏野和佳子 小学生から身につけたい一生役に立つ語彙力の育て方 KADOKAWA (2018)
- 4 高木まさき／森山卓郎 光村の国語 語彙を広げる！書いて、話して、伝わることば① 説明する 紹介する 推薦する 報告する 提案する 光村教育図書 (2018)
- 5 鈴木一史 国語教師のための語彙指導入門 明治図書 (2019)
- 6 全国大学国語教育学会 新たな時代の学びを創る小学校国語科教育研究 東洋館出版社 (2019)
- 7 国立教育政策研究所 令和3年度全国学力・学習状況調査 (2021)

「ミライシード・ムーブノート」は株式会社ベネッセコーポレーションの登録商標です。